

第5回 一般廃棄物最終処分場の候補地選定に係る住民説明会概要

1 日時 令和8年1月24日（土）10:00～11:10

2 場所 館腰公民館 研修室

3 参加者

(1) 市民6名

(2) 名取市

渋谷副市長、小松生活経済部長、朽木環境共創課長、石川環境共創課長補佐、
小山主事、石川主事

亘理名取共立衛生処理組合業務課 目黒環境衛生係長

株式会社エイト日本技術開発 2名

4 説明事項

(1) これまでの選定経過について

(2) 詳細調査の結果について

(3) 候補予定区域の絞り込みについて

<質疑応答（要約）>

（1）最終処分場の概要、選定過程などに関する質疑

Q 1 過去の選定が白紙になってしまっている要因に、ごみ処理を担っている亘名組合と最終処分場の候補地を選定している名取市との合意形成がうまくいっていないのではないかと考える。

A 1 今回の選定経過については、外部の学識経験者等で構成される候補地選定委員会に、組合にもオブザーバーとして参加してもらい、その進行状況を共有しながら進めてきている。

Q 2 3箇所への絞り込みで館腰地区が除外された一番の要因は、地下水対策が問題となったからなのか。

A 2 航空法による高さ制限があることに加え、地下水対策により工事費が高額になる点が課題であったと捉えている。

Q 3 循環無放流の場合、将来的に処理水が漏れないとは言い切れず、ダムや水田へ流入するリスクが懸念される。そのため、下水道放流できる候補地がよいのではないか。

- A 3 屋根付きのクローズド型施設は、雨水が内部に入らず、散水した水も外部へ排出されない構造となっている。遮水シートは二重・三重に敷設し、万が一破損して水が漏れた場合でもセンサーで検知できる仕組みである。下水道放流と循環無放流のいずれであっても、施設外に水が漏れない点は共通している。
- Q 4 遮水シートや感知するセンサーは、経年劣化もするので絶対に壊れないことはないと思うが、将来的にも問題ないのか。
- A 4 まずは万全な対策を講じた上で、閉鎖後も経過を継続的に監視し、市として安全を担保しながら進めていきたい。また、過去に運用していた愛島の旧最終処分場については、閉鎖から20年が経過した現在も浸出水の監視を継続しており、数値が問題ない状態が維持されている。

(2) ご意見として承ったもの

- 意見 1 館腰以外の候補地について、場所の見当がつかないため、資料として分かりやすい位置図を付けてもらいたい。
- 意見 2 選定にあたっては、海側は津波浸水想定によりコスト増が見込まれる一方、山側は熊の出没や森林破壊など自然環境への影響が懸念される。